

ワクチンスケジュール 0～7歳

2023年12月16日現在

予防接種法に基づく定期の予防接種は、次ページ以降の図に示すように、政令で接種対象年齢が定められています。この年齢以外で接種する場合は、任意接種として受けることになります。
ただしワクチン毎に定められた接種年齢がありますので注意してください。
なお、図中の★は、一例を示したものです。接種スケジュールの立て方についてはお子さまの体調・生活環境、基礎疾患の有無等を考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよく御相談ください

★:接種 ■:標準的な接種期間

■:定期接種対象期間

---:接種可能期間

0歳

1~2歳

3~7歳

定期接種

	出生時	生後6週	2カ月	3カ月	6カ月	9カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
Hib[インフルエンザ菌b型] 注1		★	★	★	■		★	■						
肺炎球菌[13価結合型] 注2		★	★	★	■		★	■						
B型肝炎 注3		★	★	■	★									
ロタウイルス [1価]		★	★				出生24週0日後まで ※生まれた日を0日として計算する							
ロタウイルス [5価]		★	★	★			出生32週0日後まで ※生まれた日を0日として計算する							
DPT-IPV[4種混合] 注4														
DPT[3種混合]			★	★	★	■	★	■						
IPV[不活化ポリオ]			★	★	★	■								
DT[2種混合] 注5			★	★	■									
BCG					★	■								
麻しん・風しん混合[MR]														
麻しん							★	■						
風しん														
水痘							★	★	■					
日本脳炎						★	■			★	★	★	■	

● DPT-IPV 4回接種
● DPT 4回接種 + IPV 4回接種
上記から選択可能
なお、原則として同一種類のワクチンを必要回数接種する

緊急避難的に接種する場合がある

注6

原則としてMRワクチンを接種

注7

任意接種

A型肝炎	2~4週間隔で2回接種し、1回目から24週を経過した後に1回、合計3回接種 WHOは1歳以上を推奨													
インフルエンザ 注8														
新型コロナ mRNA	ワクチンによって接種可能な年齢が異なる													
新型コロナ 組換え														
おたふくかぜ														
髄膜炎菌[4価結合体] 注9	2歳未満の小児等に対する安全性および有効性は確立していない なお、国内臨床試験は2~55歳を対象として実施されている													

ワクチンスケジュール 8～20歳

2023年12月16日現在

予防接種法に基づく定期の予防接種は、次ページ以降の図に示すように、政令で接種対象年齢が定められています。この年齢以外で接種する場合は、任意接種として受けることになります。
ただしワクチン毎に定められた接種年齢がありますので注意してください。
なお、図中の★は、一例を示したものです。接種スケジュールの立て方についてはお子さまの体調・生活環境、基礎疾患の有無等を考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよく御相談ください

★:接種 ■:標準的な接種期間

■:定期接種対象期間

---:接種可能期間

8~20歳

定期接種

8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳

肺炎球菌[13価結合型]

注2

任意接種となります。定期接種は生後60ヵ月に至るまで

接種対象
肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者

B型肝炎

注3

任意接種となります。定期接種は生後1歳に至るまで

DPT-IPV[4種混合]

注4

任意接種となります。定期接種は生後90ヵ月に至るまで

DPT[3種混合]

任意接種となります。定期接種は生後90ヵ月に至るまで

IPV[不活化ポリオ]

任意接種となります。定期接種は生後90ヵ月に至るまで

DT[2種混合]

注5

第2期 ★

BCG

任意接種となります。定期接種は生後1歳に至るまで

麻しん・風しん混合[MR]

任意接種となります。小児の定期接種は7歳未満

麻しん

任意接種となります。定期接種は7歳未満

風しん

任意接種となります。小児の定期接種は7歳未満

水痘

任意接種となります。定期接種は生後36月に至るまで

1995年(平成7年)4月2日から2007年(平成19年)4月1日生まれの者で4回の接種が終わっていない者。ただし20歳未満の者に限る

日本脳炎

第2期 ★

HPV

[2価]

[ヒト
パピローマウイルス]

[4価]

[9価]

基本的に同一のワクチンを規定の回数、筋肉内に接種。
接種間隔・回数はワクチンによって異なる。
なお、4価ワクチンの対象である9歳以上の男性は
定期接種対象外。

1997年4月2日~2007年4月1日生まれの
女性で、過去にHPVワクチンの接種を合計3回
受けていない方、2007年4月2日~2008年
4月1日生まれの女性は通常の接種対象の年齢
(小学校6年から高校1年相当)を超えても20
25年3月まで公費で接種できます

任意接種

A型肝炎

2~4週間隔で2回接種し、1回目から24週を経過した後に1回、合計3回接種
WHOは1歳以上を推奨

インフルエンザ

注8

新型コロナ

mRNA

ワクチンによって接種可能な年齢が異なります

組換え

おたふくかぜ

髄膜炎菌[4価結合体]

注9

国内臨床試験は2~5歳を対象として実施されている

注1: Hibワクチンに関して 生後2か月以上5歳未満の間にある者に行うが、標準として生後2か月以上7か月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、生後12か月に至るまでの間に27日以上の間隔で3回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。接種開始が生後7か月以上12か月未満の場合は、通常、生後12か月に至るまでの間に27日以上の間隔で2回皮下接種(医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能)。初回接種から7か月以上あけて、1回皮下接種(追加)。接種開始が1歳以上5歳未満の場合、通常、1回皮下接種。

注2: 肺炎球菌ワクチンに関して 生後2か月以上7か月未満で開始し、27日以上の間隔で3回接種。追加免疫は通常、生後12～15か月に1回接種の合計4回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。接種開始が生後7か月以上12か月未満の場合: 27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上あけてかつ1歳以降に1回追加接種。1歳: 60日間以上の間隔で2回接種。2歳以上5歳未満: 1回接種。

注3: B型肝炎ワクチンに関して 2016年4月1日以降に生まれた者が対象。母子感染予防はHBグロブリンと併用して定期接種ではなく健康保険で受ける。

- 健康保険適用: ①B型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)【HBワクチン】通常、0.25mLを1回、生後12時間以内を目安に皮下接種(被接種者の状況に応じて生後12時間以降とすることも可能。その場合であっても生後できるだけ早期に行う)。更に0.25mLずつを初回接種の1か月後及び6か月後の2回、皮下接種。ただし、能動的HBs抗体が獲得されていない場合には追加接種。【HBIG(原則としてHBワクチンとの併用)】初回注射は0.5～1.0mLを筋肉内注射。時期は生後5日以内(なお、生後12時間以内が望ましい)。また、追加注射には0.16～0.24mL/kgを投与。②血友病患者に「B型肝炎の予防」の目的で使用した場合。③業務外で「HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)」。
- 労災保険適用: ①業務上、HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液による汚染を受けた場合(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)。②業務上、既存の負傷にHBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液が付着し汚染を受けた場合(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)。

注4: DPT-IPVに関して D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風、IPV:不活化ポリオを表す。回数は4回接種だが、OPV(生ポリオワクチン)を1回接種している場合は、IPVをあと3回接種。DPT-IPVワクチンは、生ポリオワクチン株であるセービン株を不活化したIPVを混合したDPT-sIPVワクチン。

注5: IPVに関して なお、生ポリオワクチン(OPV)2回接種者は、ポリオ流行国渡航前を除き、IPVの接種は不要。OPV1回接種者はIPV3回接種。OPV未接種者はIPV4回接種。

注6: MRワクチン・麻しんワクチンに関して 緊急避難的に0歳で任意の麻しんワクチン接種を受けた場合、それは1回目とは数えずに、定期接種は通常通り行う。

注7: MRワクチン・麻しんワクチンに関して 同じ期内で麻しんワクチンまたは風しんワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンの選択可能。

注8: インフルエンザワクチンに関して KMバイオロジクス(株)、(一財)阪大微生物病研究会、デンカ(株)のインフルエンザワクチンは生後6か月以上、第一三共(株)のインフルエンザワクチンは1歳以上が接種対象者。

注9: 髄膜炎菌ワクチンに関して 血清型A,C,Y,Wによる侵襲性髄膜炎菌感染症を予防する。基本任意接種だが、症状・ワクチンによっては健康保険の適用あり。